

横須賀市と日産自動車株式会社によるスポーツ振興に関する連携協定

市長

この度、日産自動車様と「スポーツ振興に関する連携協定」を締結できたことを大変うれしく思います。

日産自動車様は1961年に追浜地区夏島町に追浜工場を操業され、長年にわたり横須賀市の工業と経済基盤を支えてくださってきた本市を代表とする企業です。

その中でも野球部は、横須賀を本拠地とし、都市対抗野球に29回出場、そのうち優勝2回、準優勝3回を誇るとともに、数多くのプロ野球選手を輩出されるなど、まさに横須賀市のスポーツ界の象徴ともいえる存在でした。

2009年に休止となったときには、野球、そしてスポーツを愛する者のひとりとして、これまでにない喪失感に襲われたことを今でも覚えています。

その野球部が活動を再開されることは、「音楽・スポーツ・エンターテイメント都市」をまちづくりのランドデザインのひとつとして掲げる横須賀市にとって、これほど嬉しいことはありません。本拠地となる追浜地区には、横浜 DeNA ベイスターズ総合練習場「DOCK OF BAYSTARS YOKOSUKA」や横須賀スタジアムもあります。これから追浜がまさに「ベースボールタウン」と呼ぶにふさわしい街になっていけるのではないかと期待感でいっぱいです。

地域とチームが日常の中で触れ合い、そうした中で応援する気持ちが芽生え、その応援する選手が活躍していくことで、さらに地域の一体感が高まり活性化していく、このような好循環なまちづくりを、これから日産自動車様とともに築いていければと思います。

そうした未来に向かっていくために、横須賀市として、日産硬式野球部の活動にできる限りの支援をしてゆくつもりです。

市民の皆さまにもぜひ一緒に、応援していただきますようお願い申し上げます。

私からは、以上です。

日産自動車株式会社 田川丈二専務執行役員

こうして、横須賀市様と「スポーツ振興に関する連携協定」を締結できたこと、大変うれしく思います。

当社は、2009年に休部した本社硬式野球部を、追浜工場を練習拠点として、2025年より復活させることを決定しました。野球部の活動を通じて社員のエンゲージメント向上と地域社会への貢献を目指してきます。現在社会的にも事業環境も大きく変化する中、日産がこれからも成長し続ける企業であるためには、従業員が一体となって取り組んでいくことが不可欠です。ともに仲間を応援する一体感を通じて、企業文化の醸成に野球部の活動は大いに貢献すると期待しています。

また、サステナブルな社会の実現には、我々一企業だけではなく地域の皆様との連携協力が大変重要な活動になると考えています。この協定を通じて、スポーツ振興、市民の健康増進や地域の活性化、地域課題の解決を図るとともに、横須賀市様が推進しているスポーツを核とした、まちづくりに貢献していきたいと思っております。

横須賀市では、日産自動車の主力工場のひとつである追浜工場が60年以上にわたって事業を行っており、横須賀市様とは、電気自動車の普及と電気自動車を活用した安全安心な街づくりを目指

し連携しております。スポーツのみならず、さまざまな活動を通じて、地域に根差し、愛される企業を目指していきたいと思っております。本連携協定は、こういった活動をサポートしていただくものです。今回の連携協定から一人でも多くの日産そして日産硬式野球部のファンが生まれるよう、横須賀市様と共に活動を進めていきたいと思っております。

横須賀市様には、日産自動車硬式野球部のファン拡大ならびに活動のご支援をいただき、東京ドーム、大阪ドームの晴れの舞台に横須賀市の代表として出場し、そして試合に勝って関係者で喜びの勝どきを上げられる日が1日でも早く来ることを祈念して、私の挨拶とさせていただきます。本日は、ありがとうございました。

■質疑応答

記者

連携協定の中で、連携項目として6つの項目が挙げられていると思っております。この連携項目について、具体的に実施することを教えてください。

文化スポーツ観光部長

具体的な内容については決まっておりませんが、2025年に日産野球部が再開されるとのことですので、まずはそれに先立ち、野球部の再結成についてPRをさせていただきたいと考えています。その後、活動が見えてきたら、選手や関係者の皆さまに地域での野球教室や清掃活動にご参加いただくことが、最短でできることではないかと思っています。

記者

都市対抗野球では、市の代表として、看板を背負って出場することになると思っております。それによる波及効果や期待することについて教えてください。

市長

大きな期待をしています。

シビックプライドといいますか、横須賀市のプライド「音楽・スポーツ・エンターテイメント」の中で核となるものは様々ありますが、その中で、横須賀市の誇る核となるものの一つが日産野球部であると確信しています。

マリノスやベイスターズもありますが、市民の力によって社会人野球を支えることのできるという仕組みの中で、市と一緒に盛上がるという意味では、シビックプライドを醸成するために非常にありがたいことであると思っています。

職員含め、市民全員で応援できるような仕組みを作っていきたいと思っています。

記者

休部してから十数年経過しています。追浜工場周辺の地域の方々は、これまですごい熱で応援されていて、地域を巻き込んだチーム作りをされていたと思いますが、時間が経過して高齢化も進んでいる状況で、地域をどのように盛り上げていくかというお考えをお聞かせください。

日産自動車株式会社 田川丈二専務執行役員

具体的にはこのあと、チームをリードしている同席の人事本部の田川博之と渉外部と一緒に業務にあたっている元野球部の榎本から説明申し上げます。

今回、野球部が復活する一つのきっかけとして、従業員からの声非常に多くあったことが挙げられます。従業員の声とは、すなわち横須賀あるいは追浜工場で働くみんなからの「ぜひ、復活してほしい」というものです。

これは、たまたま WBC など野球が盛り上がっているからというわけではなく、ここ数年間にわたって、野球部を復活してほしいという声が、追浜工場だけではなく日本中の工場、事業所で働く従業員、また販売店、ディーラーで働いていらっしゃる方々からも届いておりました。その声を受け、また我々としても市民のみなさまと一緒にやっていきたいという思いがあり、野球部の復活となりました。

人事本部 HRBP 部 田川博之副本部長

日産野球部復活のプロジェクトをまとめております田川と申します。地域とのかかわりについてご説明させていただきます。

まずは横須賀市からお話がありました野球教室というものがあると思っています。野球は、サッカーなどもありますが、日本で競技人口が一番多いスポーツで、地域でもプレーしている方が非常に多く、たくさんの子供たちも野球をしています。子供向けに野球教室を開催すると、大勢の親御さん、祖父母の方も見に来られます。そうすると子供たちにだけでなく、地域の皆さんと交流できます。

また、野球教室だけではなく、我々は追浜に寮を構えますので、同じ町に住む者として、例えば追浜商店街のイベントなどの地域の活動にも野球を通して関わっていけるとと思っています。

そういった中で、絆を増やしてファンを増やしていく。地域の一員として認めていただく。そういうところから地域を盛り上げていく。強いチームになるということもあるのですが、愛されるチームを作っていきたいと思っています。

記者

野球部の運営にあたり、運営コストや新たに投資するようなものがあれば教えてください。

また、数字の取り方は難しいとは思いますが、日産野球部があった時の経済効果が分かれば教えてください。

日産自動車株式会社 田川丈二専務執行役員

具体的にどういったコストがかかるかということは、のちほど人事本部の田川博之からご説明いたします。

ただ、野球部について、我々はコストであるとか負担というように思っておりません。当然、お金が掛かることは事実ですが、他の企業活動がそうであるように、大きな効果があると考えています。従業員のモチベーションや地域との密接な関わりというものに期待を持っています。

人事本部 HRBP 部 田川博之副本部長

どこからどこまでがコストと捉えるかは非常に難しいことです。社会人チームは働きながら活動します。プロ野球はチームに 60 人くらいの選手がいて、その給料すべてがコストになります。しかし社会人野球部は仕事を早く上がることはあっても従業員として働きますので、給料の全てがコストではありません。そのほかにかかる費用としては道具代、遠征費などがあります。

都市対抗野球での優勝、プロ野球選手が出ましたというような大きなことがあると、マスコミにも取り上げられます。広告効果がどれくらいなのかということは今後計算してみようとは思いますが、それよりもこういった活動をしている日産という企業について、野球を通じて地域や社会から「いい会社だな、好きだな」と感じていただきたい。これはコストがいくらということでは測れないと思いますし、それが最も大事なことだと思っています。

市長

経済効果については、まだ具体的な数字はもっていません。

ただ追浜地区は横須賀の野球の聖地です。現在、夏島にある横須賀スタジアムはベ이스ターズが

使用していますが、以前は、あのグラウンドでは、子供から大人まで野球をしていました。その聖地としての根本にあったのは、日産野球部でした。

はからずも「横須賀復活」が私のテーマです。日産野球部が復活し、野球教室、地域との交流などを行っていただき、横須賀の野球の聖地である追浜地区が復活していく。また、日産野球部の復活は、追浜地区だけでなく野球を愛する子供たちや市民のための底上げになるのではないかと期待しています。

記者

2009年に休部をした当時の背景はどのようなものだったのでしょうか。また、従業員の一体感というようなお話がありましたが、今の時代こういったことが求められてきているのでしょうか。

日産自動車株式会社 田川丈二専務執行役員

2009年当時、私は休部の決断した場におりませんでしたので、正確にお伝えすることはできないかとは思いますが、私どものみならず、企業スポーツとして、いくつかの活動がしたくてもできないという会社側の状況があったということが一番大きかったのではないかと思います。

それに対しては、非常に多くのいろいろな意見がありました。日産自動車はJリーグの横浜F・マリノスに大きく関わっておりますし、そのほかにも、卓球、陸上競技などいろいろな活動がありました。またスポーツ以外にも多くの活動を行っておりました。その中で、企業として存続し、社会貢献のために何が必要か、何を優先させるべきか難しい経営判断だったと思います。

最終的には、さまざまな声がある中で、野球部を休部にせざるを得ませんでした。ただ、廃部ではなく休部とした経緯を、当時、経営に携わっていた方に伺ったところ、将来、会社として社会に貢献できる時が来れば、再開したいという意味を込めて休部という決断をしたとのことでした。少し時間は長くかかりましたが、今日、ようやくその時に願った形が実現することになったと思います。

記者

練習拠点となるグラウンドは追浜工場内にあるのでしょうか。

人事本部 HRBP 部 田川博之副本部長

元々、日産野球部のグラウンドは横浜市旭区にありましたが、休部から2年くらい経った頃に売却いたしました。そのため、現在はグラウンドを所有していません。

現在、追浜工場の敷地内にはサッカーのグラウンドがあります。そして、その周りが公園になっていて、そこを整備して野球用のグラウンドを作る予定です。

記者

休部前はグラウンドだけでなく選手寮も横浜市旭区にあったと記憶しています。メンバーは県内の各工場や本社に散らばって仕事をしていたと思いますが、今回の再開にあたり何人規模で部員の方はどのような勤務体系になりますか。

また、市長は追浜をベースボールタウンにしたいとおっしゃいました。これはベイスターズとの交流ということを考えていると思います。現在、横須賀ではプロアマ交流戦が横須賀スタジアムで行われていますが、これ以外に日産野球部とベイスターズの交流は考えていますか。

人事本部 HRBP 部 田川博之副本部長

一般的な社会人野球の人数構成としては、選手は20人強から30人程度。監督・コーチ・スタッフは5人程度です。そういったチームと戦うにあたり、我々も同じような人数構成のチーム作りをしていく予定です。

勤務形態については、社会人野球ですので勤務をしながら野球をします。通常はどこの企業も朝は会社に来て仕事をして、午後は少し早くあがって日が暮れるまで練習するといった流れです。土日は試合ですが、試合がなければ練習となります。

記者

全員が追浜工場に勤務されるのでしょうか。

人事本部 HRBP 部 田川博之副本部長

横浜本社、横浜工場、本牧工場など追浜のグラウンドに通える地域に配属となります。仕事が終わって、追浜のグラウンドに集まって練習します。

文化スポーツ観光部長

ベ이스ターズとのかかわりですが、例えば、いまご質問のありましたプロアマ交流戦については、過去にも日産野球部にもプロアマ交流戦にご参加いただいておりますので、関係団体との調整は必要となりますが、今後もぜひご参加いただければ非常に実りのある交流戦になるのではないかと考えています。ベ이스ターズや神奈川フューチャードリームスがいらっしゃいますが、日産野球部はより身近な球団となりますので、さらに市民の方が応援しやすくなると思っています。また、アイデアレベルでキーワードがでてきているような段階ですが、全国的に課題となっている部活動の地域移行にもご協力いただけないかということで、これからお話をさせていただければと考えています。

記者

今年9月に日産野球部の活動再開を発表された時点の情報から、グラウンドの確保や選手、監督の人選など、準備にあたってアップデートされた情報があれば教えてください。

人事本部 HRBP 部 田川博之副本部長

発表から本日までの間に、追浜工場に作るグラウンドの仕様決定、これからの選手採用にあたってのスカウティングの準備など、社内で兼務という形で集まり進めてきました。年が明けてからは、専任メンバーを配置し、広報などの関係部署とみんなで協力しながら復活に向けて加速させていきたいと考えています。

記者

今回の横須賀市との協定締結によって、地域に日産ファンが多く生まれることを期待していると思います。メーカーにとっては、地域との信頼を高めることで人材確保にも大きなメリットがあると思いますが、経営にとって横須賀市と連携することでどういったメリットがあると考えていますか。また、福岡の神田でも野球部が復活すると思います。そちらの方ではどのような取り組みをされていますか。

日産自動車株式会社 田川丈二専務執行役員

野球部の復活にあたっては、直接的な経営メリットの追求や、経営会議の際に「メリットがあるからやるべきだ」というような議論があって決定したわけではありません。復活を決定した一番大きな理由は従業員の声です。従業員が高くモチベーションを持てることは、追浜工場の従業員、日本全国の野球ファン、日本のみなさんのためになると考えています。我々は B to C で消費者のみなさんにつながっている会社ですから、そういうことでの効果が間接的にあるということは頭の中にあっただけかもしれませんが、今回の復活を決めるときに、数字の上

でメリットを考えて決定しているわけではありません。ただ、2009年に本社も横浜に移り、それ以来、いかに地域と密着して、神奈川、横浜そして横須賀の企業としてみなさまと一緒にやっていけるかということを考えてきています。それは、車をたくさん売りたいというような直接的なことではなく、地域のみなさんが日産のファンになっていただくことや日産本社が横浜にあってよかったな、野球部が横須賀にあってよかったなと思ってくださることが、地域貢献活動として非常に重要だと考え、今回の決定につながりました。

人事本部 HRBP 部 田川博之副本部長

日産九州野球部も同じように2009年に休部になりました。

そして2010年から、「神田ヴィクトリーズ」というクラブチームとして地域の大会に参加して活動をしてきました。今回の九州野球部は、このクラブチームを母体にしたチームを作ることとなっています。

先日、「神田ヴィクトリーズ」の解散式を行い、正式に解散いたしました。そして、このチームを母体に1月から日産九州野球部として新たに活動開始します。選手も決まっております、ユニフォームもほぼできつつありますので、年が明けてからもみんなで練習ができるようになっています。

3月の日本野球連盟の大会から参加するというので、間もなくスタートという状況です。

以上

■案件以外の質疑

記者

米海軍基地のPFOSに関連して質問します。

PEFOSが流出しないように設置された活性炭フィルターにブルーシートがかかっていることが、市民団体の監視で判明し、稼働していないのではないかという話がありました。これについて市は、何か確認をされたのでしょうか。

市長特命参与

現在、国に確認していますが、国は米側からそのような話は聞いてないとのこと。

記者

市としてはこれ以上対応しないということでしょうか。

市長特命参与

国とは頻繁に連絡を取っていますが、今の段階ではそのような話は聞こえてきません。

記者

今年最後の記者会見になりますが、今年一年を振り返ってみて、横須賀市政あるいは横須賀市の出来事で一番心に残ったことを教えてください。

市長

まだまだ予断を許しませんが、コロナから解放されたという安堵の気持ちがあります。

必死でした。様々なことをやりつくしながら、どうしたら横須賀の状況が良くなるかということしか頭にありませんでした。

音楽・スポーツ・エンターテイメントについて、ロックイベントも開催しましたし、さらに一步

進めることができたと思います。

また、DX について、ChatGPT を導入するなど、少子高齢化に向かっている中で、根本的な行政の構造改革ができるかということにも取り組むことができました。

記者

反対に足りなかった点や、来年に持ち越された課題などはありますか。

市長

ある意味、色々やり尽くしたところがありますので、どういう形で芽生えていくのか、大きな花を開かせていくのか、ということが感じられる年になると思っています。

最後に残されたのは、浦賀の開発だと思います。追浜、久里浜という拠点が設けられたときに、浦賀をしっかりとやらなければ、画竜点睛を欠くと思っています。来年度以降、浦賀の開発に具体的な目途をつけることが課題であると考えています。